



1\_3月12日、鶴飼事務局長がスクリーン絵馬を寄贈 2\_2月23日、すまいる大使のパニラさんと片倉組が初共演 3\_映像と舞台上で構成された時代劇で活弁をするパニラさん 4\_白石温麺などをPRする佐藤清治製麺の佐藤代表 5\_2月24日、10Kgを超える甲冑を身にまとい愛宕山を登った片倉組の真田幸村と片倉小十郎重長。愛宕神社本堂の絵馬の前で記念撮影

### 白石城二代城主・片倉小十郎重綱が 京都の愛宕神社に絵馬を奉納した史実が縁

## 片倉家が奉納した絵馬が 400年の時を経て 京都から東北の地へ

### みちのくに 愛宕天狗が舞い降りる

2月23日、全国に約900ある愛宕神社の総本山や各地の愛宕神社・愛宕山の信仰を平成14年から調査・研究している「京都愛宕研究会」(八木透会長)主催の東日本大震災復興支援プロジェクト「みちのくに愛宕天狗が舞い降りる」が京都府亀岡市で開催された。

このイベントは、約400年前、伊達政宗の命で白石城二代城主・片倉小十郎重綱(後に重長と改名)が、大坂夏の陣で戦勝成就したお礼として元和元(1615)年に京都愛宕山に奉納した絵馬を復元し、被災地の復興と再生を応援しようと同会が企画。東日本大震災を風化させないようにと、長編ドキュメンタリー映画「3月11日を生きて」石巻・門脇小・人びと・ことば」の上映で幕を開け、その後、映像と舞台上で構成された時代劇「愛宕天狗」戦国武将が賭けた思いは」が行われた。構成劇では、本市のすまいる大使山崎パニラさんと、白石戦

國武将隊奥州片倉組の片倉小十郎重長、真田幸村が初共演。パニラさんは、関ヶ原の戦いで伊達政宗が徳川家康の上杉討伐に出陣し、上杉が守りを固める白石城に襲いかかった「白石城の戦」で、17歳の若武者片倉重綱の初陣の様子などを活弁した。また、大坂夏の陣で戦った宿敵、真田幸村の娘・阿梅を片倉小十郎重綱が正室に迎え、戦国時代に終止符を打つ活弁には、片倉組の2人も登場し、会場を沸かせた。

また、本市教育委員会生涯学習課の櫻井和人主査は、初代片倉小十郎重綱は神主の息子であったが、政治や軍事、特に外交面で大きな力を発揮し、伊達政宗の信頼を勝ち得て慶長7(1602)年に白石城主になったことや、片倉小十郎重綱は甲冑の前立てに愛宕神社の御札「愛宕山大権現守護所」を掲げるほど、愛宕山への信仰をもつ武将だったことを説明。大坂夏の陣の出陣では、馬上の家臣60人が「愛宕山大権現守護所」の前立てを付け、それに続く百人の侍も、背中に「愛宕山大権

現守護所」の文字が入った羽織を着て出陣するほど、篤い信仰をもつ武将であったことなどを分かりやすく説明した。イベントのフィナーレは、「京都愛宕研究会」の八木会長が愛宕神社にある絵馬の2分の1の大きさの復元絵馬を、平成25年度に本市に寄贈する約束手形を風間市長に手渡した。

八木会長は、「元和元年に片倉小十郎重綱が『戦いに打ち勝つ』ために東北から京都の愛宕山に願を懸け、成就した絵馬を復元し、東日本大震災で大きな被害を受けた東北の皆さんが『困難に打ち勝つ』ための心のよりどころとなることを願い、『いま、京都から東北へ』立願成就の復元絵馬を贈りたいと思います。2分の1の大きさの復元絵馬ができるまでの間、この思いを少しでも早く東北に届けるため、宮城県図書館所蔵の下絵を基に布地に複製したスクリーン絵馬を約束手形として白石市に贈呈することを約束します」と復元絵馬に込めた思いを話した。

このイベントの入場料収入はすべて、絵馬復元に充てられた。

### 困難に打ち勝ってほしい という思いを東北へ

3月12日、「京都愛宕研究会」の鶴飼均事務局長と、会員の大ケ谷宗一さん、松山秀行さんの3人が市役所を訪れ、スクリーン絵馬を風間市長に手渡した。本市に寄贈されたスクリーン絵馬は、横280cm、縦196cm。愛宕神社に奉納されている絵馬が長年の歳月で図柄などがはつきりしないため、宮城県図書館所蔵の下絵から複製された。図柄は、愛宕山に住む日本一の天狗とされる烏天狗「太郎坊」が袈裟をまとい、錫杖を手に神とされるイノシシに乗る様子が描かれ、かつての愛宕信仰を象徴する図柄だという。

贈呈式で風間市長は、「白石城も震災で大きな被害を受けましたが、昨年復旧することができました。復元絵馬の寄贈は、白石城に新たな魂が入るような気がします。史実が縁でつながりができたことに感謝します。スクリーン絵馬は、白石城歴史探訪ミュージアムに展示させていただきます。1日も早く白石城に復元絵馬が届くことを楽しみにしています」と感謝の気持ちを述べた。

## 気持ちを形に！ 絵馬復元で復興支援



京都愛宕研究会 事務局長 鶴飼均さん  
現在まで守られてきた、東北と京都を結ぶ絆を今に示す重要な文化財です。

片倉小十郎重綱が戦勝祈願成就の絵馬を奉納して398年。その後、寛文6(1666)年に三代目片倉小十郎景長、そして、寛政12(1800)年に八代目片倉小十郎村典によって再奉納されました。村典が奉納した絵馬が現在愛宕神社に掲げられている絵馬です。残念ながら現在その図柄は、長い間に風化して見えにくくなっていますが、この絵馬は、片倉家の皆さんをはじめ、時の為政者や戦国武将、愛宕山の崇敬者の皆さんによって

京都愛宕研究会では、「東日本大震災復興支援プロジェクト」と題し、かつて片倉小十郎が京都の愛宕神社に奉納した絵馬を「困難に打ち勝つシンボル」として被災された方々の心の支えとなるようお願い、復元して東北に届け、心の支えと、被災地の復興と再生に向けた取り組みなどを行っていきたくと考えています。

平成25年度中には、奉納者片倉小十郎の本拠地白石市へ2分の1の大きさの復元絵馬を寄贈します。さらに平成27年5月24日には、初代の絵馬が奉納されて400年という記念の日を迎えます。記念の日に向かって実物大の絵馬の復元を目指して、イベントや会のホームページで寄付を募るなど、積極的に活動を行っていきたくと思っています。

このプロジェクトが東日本大震災復興支援の一助となれば幸いです。

●ホームページURL <http://kyotoatago.org/>